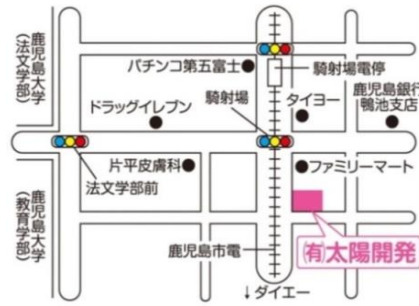


SUNSHINE

第 92号 2016年 9月発行
 有限会社 太陽開発
 鹿児島市鴨池2丁目1-12 Tel.099-255-3623
 E-Mail master91@taiyou1991.com

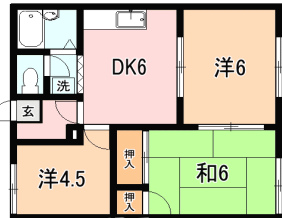


太陽開発 検索 クリック!!

賃貸マンションご紹介します!

今回ご紹介させて頂くのは閑静な住宅街、自由ヶ丘2丁目にある【クリエイト自由ヶ丘】です。
 中山バイパスまで徒歩6分で、ドラッグストアコスモスや、ヤマダ電機、飲食店なども豊富で便利な場所になります。
 室内は広々3DKタイプです。新婚さんや、和室もあるのでお子様がいらっしゃるファミリーの方にもオススメです。駐車場付きに加え、ペット可物件でもあるので、大好きなペット(小型犬・猫)とも一緒に暮らせますよ。
 オーナー様は入居者様が気持ちよく生活できるように、定期的に建物共用部分の掃除やパトロールなどを行っているそうです。又、空室が出た際は、床の張り替えやクロスの張り替えなど定期的リフォームを行い、次のご入居者様の要望なども快く受け入れる入居者様思いのオーナー様です。
 詳しくは当社ホームページ・インターネットも掲載中です(*^_^*)

クリエイト自由ヶ丘



間取り

ダイニング

洋室

和室

今月の一冊

No.91



一号線を北上せよ ヴェトナム街道編



沢木耕太郎

1947年東京生まれ。横浜国立大学卒。入社した会社を1日で退社、若き自衛官を描く『防人のブルース』でいきなりデビューし、注目を浴びた。以後、テーマやスタイルで新しい冒険を繰り返しながら表現の領域を広げる。乗りあひバスでテリからロンドンまで走破したときの記録『深夜特急』はいまも若々しい輝きに満ちている。'79年『テロルの決算』で大宅壮一ノンフィクション賞、'85年『バーボンストリート』で講談社エッセイ賞、'93年『深夜特急 第三』

旅に出たい...身を焦がし、胸を締めつける思い。ホーチンからハノイまで、<私>は幹線道路をバスで走破するイメージに取り憑かれてしまった。飛行機の墜落事故で背中や腰を痛めた直後なのに、うなる声が命じるのだ。「一号線を北上せよ!」テーマ別に再編成を加えた「夢見た旅」の記録、待望の文庫化。
 『講談社文庫』裏表紙より

沢木耕太郎の作品を紹介するのは『深夜特急』『敗れざる者たち』に続いて三回目です。前回の「今月の一冊」で近藤紘一の『サイゴンから来た妻と娘』『サイゴンのいちばん長い日』をとりあげましたが、この二人は1979年の大宅壮一ノンフィクション賞を、沢木耕太郎が『テロルの決算』で、近藤紘一が『サイゴンから来た妻と娘』で受賞しています。二人は直接会う事はなかったのですが、近藤氏の死後、沢木氏が近藤氏の原稿から編集をして『目撃者』という作品集を完成させています。
 沢木耕太郎の本を読むと、いつも人生と旅の意味を考えさせられます。そしていつも答えは出ません。しかし今回この作品の中で取り上げられていた古いパルシャの書『カーブス・ナーメ』の一節「若いうちは若者らしく、年をとったら年寄りらしくせよ」を旅に当てはめると、少しヒントがもらえたような気がします。

おじさんのぶどう園 (中島農園)



暑さがまだまだ続く8月24日、女性社員で金峰町にあるぶどう園にブドウ狩りに行ってきました。実はこのぶどう園、当社がいつもお世話になっている大家様・中島一憲様が経営されているんです! 中島農園「おじさんのぶどう園」は南さつま市の2000年橋の近くで、避暑地という言葉がピッタリなほど山から来る風がとても涼しいところでした。

中島様は南さつまの自然環境が気に入り、七年前埼玉県からターンしていらしゃいました。そこで、高齢や仕事等を理由に後継者を探していた前経営者から農園を引き継ぎ、人生初のブドウ栽培にトライ! 色々と苦難もあったそうですが、以前より経営をされているブドウ農園の方から温度管理や葉がけなど手取り足取り教えてもらい、5月には房が大きくなり、花が咲き房の剪定、その後大豆位の大きさに実がなるとと袋がけをしていくのですが、それも一つ一つ手作業でかけていっていったそうです!

そんな中島様が、手間暇かけて作られたのがこちらのブドウ! (下写真)この日は、午前中に幼稚園児達が遊びに来ていてたくさん取っていたそうですが、それでもまだまだ数えきれないほどたくさんありました! ブドウについての袋は横から中が覗けるようになっていて、しっかりと熟しているか見えるようになっています。ハサミで切るとずっしりと重量感!!中を開けると、とっても甘い匂いがしました♪早速その場で試食、これがビックリするほどの甘さ!!普通に冷やして食べても瑞々しくてとても美味しいですが、冷凍してもとっても美味しいですよ!



残念ながら今シーズンは終わってしまいましたが、皆様も是非来シーズン遊びに行ってみて下さい!



先日の記事で再来年のNHK大河ドラマは林真理子が描く「西郷どん」に決定とありました。今回は「西郷隆盛」について以前より気になっていたことを書いてみます。
 西郷と江戸城無血開城会談を行った勝海舟が西郷の死を悼み詠んだ「ぬれぎぬを干そうともせず子供らがなすがまにまに果てし君かな」という歌があります。この歌は現在、南洲神社に歌碑として建立されています。私はこの歌の「ぬれぎぬ」という言葉が以前より気になっていたで今回調べたことを勝手に論じたいとおもいます。この言葉のキーワードは「征韓論」と西南戦争による政府への反逆即ち「国賊」ではないかと考えています。司馬遼太郎は「翔ぶが如く」の中で、西郷を中心とする征韓派と大久保を中心とする反征韓派の闘いが政変へと発展したとあります。また、既得権を失った士族階級の不平は一触即発の状態であった。
 西郷は革命による不満を一身に受けてしまうのである。その士族の不満の中で浮上したのが征韓論である。西郷は全国二百万人といわれる没落士族を救う道は「外征以外ない」とみたとあります。しかし、海音寺潮五郎は西郷自身は「征韓」という言葉は使っていないと主張しています。他の説に、西郷は公式の場で朝鮮を武力で征伐するなどという論は一度も主張していません。なぜ西郷を征韓論者だと決め付けるようになったのか。それは当時西郷に対立した大久保らが自らの正当性を主張するがゆえのまやかしたという説もあります。征韓論については、説に微妙な違いがあり、どの説が正しいのか私には判断できませんが、西郷が下野する原因のひとつではあったと思います。当時の世相として、ロシア南下の脅威対策として朝鮮国交回復の問題、廃藩置県等で武家社会が解体され、不平士族の発生、政府高官の対立等さまざまな要因の中で西南戦争の引き金の一つとして西郷征韓論が唱えられたのでは私は想像します。西郷の国賊については、福沢諭吉の小説「丁丑公論」を引用します。福沢は西郷を国賊呼ばわりする時の世論に公平を著しく損うものがあると感じ、正義を回復するためにこの論を記したとある。そもそも西郷は生涯に政府の転覆を二度企てた。一度目は維新の時であって、その時には徳川幕府を転覆させた。二度目は今度の西南戦争であって、これは西郷にとって不運なことに失敗に終わった。一方は成功し他方は失敗と相違はあるが政府への反逆と云う点では毫も相違はない。しかるに最初の反逆には忠義の名を与え、後の反逆には国賊の名を与えるというのは筋の通らぬ話だとある。今まで紹介した内容は勝海舟自身のものではないが西郷が唱えたのは征韓論ではなく、ロシア南下の脅威を防ぐ為の遣韓論であり朝鮮へ対して武力を行使する考えは無かったと勝は言いたかったのではないだろうか。政府への反逆として国賊の汚名を着せられたことについても、維新政府の権力争いにまきこまれた末、時の政府高官の奢侈な生活と横暴を正す為の行動が私学校生徒の暴動という非惨な結末に終わったことで「ぬれぎぬ」の表現が生まれたと私は考えます。1889年(明治22年)2月11日大日本帝国憲法が公布されると西南戦争で剥奪された官位が西郷に戻され名誉が回復された。これを機会に上野公園に西郷の銅像が立てられた。最後に勝海舟の氷川清話に「東京今日の繁昌のもと」の章があり、その中で江戸が無事に終わったのは西郷の力で東京が今日繁



勝海舟の歌碑